

第3学年 国語科 学習指導案

場 所 3年1組

対 象 3年1組 (男子8名女子14名計22名)

指導者 稲部 美佳

1 単元名 人と人、人と社会の関係性についての作者の描き方を批評しよう
学習材名「故郷」 魯迅 作 竹内 好 訳 (新編 新しい国語3 東京書籍)

2 単元について

(1) 生徒について

1学期には、観点を焦点化(学習材名「百科事典少女」の中心となる「紳士おじさん」の心情描写を一切行わなかった作者の意図に関して)して批評を行っている。自分の考えを持ち寄り、交流することによって、全員が人物設定についての自分の考えを批評につなげることができた。

今年度の全国学力・学習状況調査では、国語B「文脈中における語句の意味を理解する」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」の項目で県比較各1.6ポイント、3.4ポイントの落ち込みが見られた。ここから、1学期の学習にさらに重ねて指導する必要があることがわかった。

生徒たちは、普段から学習内容に対して「わかりたい」「表現したい」という意欲をもって取り組んでいる。交流を通して互いに誤読を批正したり、叙述を根拠に自分の読みを伝え合ったりして、広がりや深まりを得る活動を行っている。また、グループ内や全体での交流をもとに自分の考えや読みを書く学習活動を通して、アウトプットすることに抵抗がない。

本単元では、中学校3年間の集大成として、テーマを選択しての批評活動に取り組ませたい。

(2) 学習材について

この作品は、人と社会の関係や人と人との関係を時間軸や世代など様々な対比によって、また優れた人物設定によって読ませる作品である。読むたびに発見があり、これから社会に出て行く生徒たちにとって、「わりきれないもの」等の複雑な人間の感情を知り、自らの意思で対応していく力を養う素地を育むのに適した作品である。

冒頭からラストシーンまで、ありとあらゆる優れた描写が効果的に配置されている。なかでも主人公「私」と、主人公にとっての輝くばかりの小英雄であった「ルントー」との再会場面は、生徒たちにとっても衝撃的なシーンとして印象に残るだろう。ラストシーンには、心象風景のなかの「ルントー」は消えてしまっている。「私」は、美しい故郷の思い出としての「ルントー」像と決別し、自らの意志に従って理想を追い求めていくことを自覚するのである。

小学校第5学年及び6学年では、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」(文学的な文章の解釈)、「読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」(自分の考えの形成及び交流)を行ってきた。これを踏まえて、中学校3学年の最終段階では、「場面や登場人物の設定の仕方をとらえ」(文章の解釈)、「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」(自分の考えの形成)を行う。本単元では、交流によって得た考えの広がりや深まりを、批評文として表す活動を行う。

(3) 指導について

本時では、主人公と「ルントー」が再会する場面を扱う。この場面には、人と人との関係がその社会での常識や制度、混乱する社会状況によって変容せざるを得ない状況に陥ることがある、ということを強く意識させる効果がある。しかし、生徒が「どうしてルントーは変わってしまったのか」について、すぐに結論を見いだすことは難しいだろう。主人公のいう「悲しむべき厚い壁」について考え、交流することで、安易に「身分制度」があることによって「だんな様!」という言葉が発せられたのではないことを読み取っていくであろう。

考えを形成する段階として、個人で考える時間を確保しつつ、学習形態については「グループ」「全体」と柔軟に活用して行いたい。特にもグループでの交流場面では、相手の考えを受け止めた上で、腑に落ちないこと、もう少し掘り下げたいことについては、どんどん語らせたい。異なる立場で互いを説得しようとする場面が生まれることも期待する。

3 単元の目標と評価規準、本単元の指導計画

(1) 単元の目標

人と人、人と社会の関係性について、批評文を書く。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
<ul style="list-style-type: none"> ・批評文を完成させようとしている。 ・書き上げた批評文を持ち寄り、作品に対する理解を深めるとともに、仲間の批評文を読み合っようなよさを発見しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことや作品中の語彙や表現から想像したことをもとに、作品を批評する文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩語や心情表現、情景描写について、想像力豊かに読んだり、状況や心情を的確に読み取ったり、作品の構成や設定について理解したりしている。(内容の理解) ・作品を読んで、人間の生き方や理想とする社会などについて、自分の考えをもっている。(自分の考えの形成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・凝縮された漢語表現や擬人的・擬態的な比喻表現が醸し出す情景を理解するために、語彙の文脈における意味・用法を理解して、批評内容に反映させている。

(3) 指導と評価の計画（時間）（太枠が本時）

時	学習内容	評価規準				
		関	書	読	伝国	
小学校	小学第1学年及び第2学年 「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」 小学第3学年及び第4学年 「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。」 小学第5学年及び第6学年 「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」					
1	単元に学習についての見直しを持つ。	◎				批評文作成に向けて、学習の見直しをもつ。
	本文を通読し、初発の感想をまとめる。	○				批評につなげるために、一読後に、観点に沿って今後の読みのヒントとなるメモを作ろうとしている。
2	冒頭部について、状況を把握し、五感を駆使して「私」の心情を理解する。			◎		色彩語や視線の移動、体感温度などについて、五感を駆使してイメージを膨らませながら、状況や心情を理解している。
	20年ぶりの故郷の様子と、我が家の没落ぶりを目の当たりにした「私」の心情描写について理解する。			◎		文章に使用されている語彙について、和語や類語と比較しながら、読者に想起させるイメージの幅や奥行きの違いについて理解している。
3	回想シーンで「ルントー」の魅力を見つけ、その魅力について交流する。	○				自分が見つけた魅力を積極的に交流することにより、内容を理解しようとしている。
				◎		自分が魅力的だと思った叙述を複数見つけ、その魅力について想像を膨らませて読み取っている。
4					○	隠喩を捉え、その表現が読者に与えるイメージの広がりや「私」が感じた「ルントー」の輝き、憧れの強さを捉えている。
	「ヤンおばさん」の現在と過去の様子を対比して、何がそうさせているのかを考える。			◎		「ヤンおばさん」の変貌ぶりを「私」の表現から見つけ、何がそうさせたのかを、自分の言葉で表現している。
					○	「ヤンおばさん」の変貌ぶりを表現した比喻から、文章の意味を的確に捉えている。

5	「ルントー」との再会の場面から、両者の受けた衝撃や懊悩を読み取る。	○	◎	「私」が覚えている「銀の首輪の小英雄」とは容姿から言葉遣いまで変わってしまった「ルントー」との再会の場面を捉え、両者を隔てた「悲しむべき厚い壁」について、自分の言葉で再表現している。 叙述と当時の社会状況に対応させて、自分の考えを積極的に交流し、理解を深めようとしている。
6	ラストシーンにおいて、「私」が考えている「新しい生活」や「希望」について、自分の読みを交流する。	○	◎	「～願わない」という叙述から読み取り、既存の社会通年から脱却した「新しい価値観の生活」を願っていることを捉えている。 互いの読みを交流し、「新しい生活」や「希望」について、自分の読みの不足を補ったり、深めたりしようとしている。
7	これまでの学習を通して捉えたことを基にして、作品の見事さについて文章を作成する。		◎	テーマを選択して、条件にしたって 600 字以内で批評文を書いている。
8	批評文を持ち寄り、作品についての理解と「希望」や「社会」についての考えを交流する。	◎	○	持ち寄った批評文に表された各々の考えを交流し、読みの奥行きや差異を受け止め、それぞれの批評文についてのよさや考え、作品の内容についての考えを交流しようとしている。 「希望」や「社会」についての各自の考えを、自分の考えと比較しながら共感的に受け止めて交流している。

4 本時の指導

(1) 目標

- ・ルントーが変貌した人物として登場することの意味や読者に与える効果について考え、自分の言葉でまとめることができる。【読むこと】

(2) 評価規準

評価の観点	A 十分満足できる状況	B 概ね満足できる状況	支援を要する生徒への手だて
読むこと	・当時の社会状況を加味して、重要人物の変貌が主人公に与えた衝撃の強さを、読者に効果的に伝えることで作者の意図が伝わりやすくなることを、自分の言葉で説明している。	・重要な登場人物を変貌した姿で描くことの意味や読者に与える効果について考え、自分の言葉でまとめている。	・もし、ルントーが少年の時の輝きを失わずにいたら、この再会の場面はどうなるかなど、逆説的な問いかけをしながら支援していく。

(3) 展開

	生徒の学習活動	教師の支援 【かかわりの場面】 ○発問 ◇留意点 ◆評価
導入 3分	1 前時想起 2 本時課題提示 課題 登場人物をどう描けば対比が際立つかについて考え、記述する。	1 ◇出会った当時の「ルントー」とは「似もつかない」現在の疲れ果てた様子を押しさえさせる。 2 ○再会の場面において、ルントーが変貌した人物として登場することの意味や、読者に与える効果を考えていきます。
展開 37分	3 音読（全員） 4 再会した二人の反応を確認する。 5 二人を隔てた「悲しむべき厚い壁」の正体を考える。 ① 個人で考える 6 「ルントー」を変えてしまったものを叙述から捉える。 7 前時で扱った「ヤンおばさん」と、今回の再会場面の「ルントー」の変貌ぶりで、ギャップをより感じるのはどちらか、それは何故かを考える。 8 このギャップの大きい「ルントー」を登場させたことの意味や、読者に印象づける効果について考える。 ① 個人 ② グループ 1回目-9分 2回目-必要に応じて4～5分 9 まとめ 各グループのホワイトボードの考えの要点を理解する。	3 ○内容を確認するために各自音読をしましょう。 5◇① 個人 叙述からヒントを得て導き出した予想をメモさせる。 8◆個人→プリント 重要人物（ルントー）の変貌した姿を描くことの意味や効果について自分の言葉でまとめている。 ◇記述することに自信がもてない生徒への支援 ここに昔のままの「ルントー」が登場したら、この作品で伝えたいものは、読者に印象づけることができるかどうかを考えさせる。 【考える視点】 ①「私」にとって「ルントー」はどういう存在だったのか。 ②作者が「ルントー」を大きく変貌させたのは、読者に何を伝えたかったからか。 【予想される内容】 「①私にとってルントーはあこがれの存在（美しい故郷の記憶）であった。②その人物を大きく変貌させたのは、その当時の常識である身分制度によって、人と人との関係が壊れる哀しさ（時代の残酷さ・身分の切なさ）を伝えたかったからではないか。」等 ②【かかわりの場面】 グループ ◇各グループに1枚ホワイトボードを渡し、各グループで記述させる。（簡条書き） ◇要点整理の際に説明を求め、クラスの反応を見てグループ活動を入れていく。
終末 10分	7 振り返り 8 次時予告	7 【観点】 課題について、どんな方法でアプローチしたか、どんなこと（内容）を得たか、深まったか、これから小説を読んでいく上でどう生かせるか。 【振り返り例】 自分で考え、グループでさらに考えたら、この場面で、ルントーの出し方は、ヤンおばさんの時の出し方よりも大きな意味を持つことや、対比することで作者の狙いやねらいが印象づけられることが分かった。批評文に使用したいと思った。